



田舎の道

文化

大阪の中心部、中之島に建つ大阪市中央公会堂(国重要文化財)は、ネオルネサンス様式の外観や壮麗な内装で知られる。大阪を代表するこの近代建築は100年前、株式仲買人の岩本栄之助による巨額の寄付で見られた。私は完成を見て、ことなく世を去った岩本の生きざまに感動し、彼を主人公にした「愛が降る街」というミュージカルを制作・上演している。

30年前、大阪府八尾市で「SHOWROOM ANNY」という小さな劇団を立ち上げた。今年11月に、中央公会堂は開館100周年を迎え、同日には大集會堂で久しぶりに「愛が降る街」を上演する。偶然に導かれたミュージカル制作の経緯を「紹介したい」。



11月に開館100周年を迎える大阪市中中央公会堂(大阪市北区)

「あなたは知っていますか?」
 壮麗な国重要文化財
 「あなたは知っていますか?」
 今回、ミュージカルのチラシにこんな文言を入れてみた。現在、岩本を知る人は数少ないからだ。大阪で生まれ育った私

の活動場所である劇場の閉鎖が相次いでいた。その一つ、道頓堀の中座では前年、解体作業中に爆発事故が起きた。冬のある日、中央公会堂で自分たちの準備をする合間に、中座前での応援・慰問イベントに出向いた。疲れ切り、中之島に戻るのにタクシーに乗った。運転手の男性は私たちが

を観光客と思ったのだろう。「中央公会堂はたった1人の市民の寄付でできたんですよ」と話しかけてきた。「完成前に株で大損して、リストル自殺してしまっただけです。私と、同業していた脚本・音楽担当のえいばんは初めて聞く話にじっと耳を傾けた。

現在の価値で30億円
 岩本の寄付額は現在の価値で30億円にのぼる1

たからだ。席に余裕があったので、ホームレスの方たちで、「見に来ませんか」と声を掛ける。翌日に十数人がごさばりした服装で来場してくださった。終演後、皆が良かった。感動したと喜んでくれた。一人が「これから頑張って生きていく」と話したのが忘れられない。岩本を演じる私自身、その短い生涯をたどると切なくなる。劇中の岩本は皆が幸せになる方法を考えて、夢を語り続ける明るい男だ。多くの人に公會堂の恩人と呼ばれた彼を知ってほしい。(さかがみ・めいこミュージカル劇団代表)

公會堂の恩人 大阪に再び

◇開館100年 寄付主の岩本栄之助の人生をミュージカルに◇

阪上 めいこ



一連の経緯に心を動かされた私たちは上演予定だった演目を変更。米國を舞台にした新作劇から一転、岩本を主人公にしたミュージカルを創作することにしました。えいばんはすでに脚本を書き、私も図書館で様々な資料を調べ始めた。

00万円。まだ34歳だった。株式仲買などの家業を継ぎ、日露戦争の大相場で巨額の利益を上げた。大阪の若手経済人として頭角を現し、1909年、渋沢栄一を団長に

した米國視察団に加わる。米國では富豪が私財を投じて公共施設を整備していたことを知り、刺激を受けたようだ。100万円の寄付は大きく報じられ、13年に中央公会堂の建設が始まった。ところが、岩本は相場で失敗し、苦境に陥る。寄付を戻す申し出を断ったうえで、16年10月に「その秋をまたでちりゆく紅葉かな」の辞世の句を残して亡くなった。周囲の証言からは、父母への尊敬の念や他者への思いや、社会貢献の意識が強く、大阪の発展を真剣に追求した真面目な人物像が見えてくる。

「一連の経緯に心を動かされた私たちは上演予定だった演目を変更。米國を舞台にした新作劇から一転、岩本を主人公にしたミュージカルを創作することにしました。えいばんはすでに脚本を書き、私も図書館で様々な資料を調べ始めた。」

も15年前まで知らなかった。中央公会堂は2002年の大改修で美しくよみがえったが、以前は古びた建物のイメージしかなかった。建設の経緯を教えてくれる人もいなかった。

私たちの劇団が厚重な雰囲気と魅せられて、初めて中央公会堂を使ったのは03年。1、2月にライブイベントを開き、7月は新作舞台を上演する予定だった。当時、大阪では私たち

屋根に据えられた古代ローマ神話のメルクリウスとミネルバの像や岩本とのミネルバファンになった女子学生らと会話を交わしながら、波瀾万丈の人生を振り返る。ナレーションで史実をほさみながら、会話は親しみやすい大阪弁にした。

ホームレスの方を招待
 03年の初演時、中央公會堂の周囲にはホームレスの人たちが大勢いた。脚本では、それを目にした岩本が悲しむ憤り。自ら犠牲となつて、市民皆が使える立派な施設を残した彼が、疲弊した大阪の現状を見たら「情けな

たからだ。席に余裕があったので、ホームレスの方たちで、「見に来ませんか」と声を掛ける。翌日に十数人がごさばりした服装で来場してくださった。終演後、皆が良かった。感動したと喜んでくれた。一人が「これから頑張って生きていく」と話したのが忘れられない。岩本を演じる私自身、その短い生涯をたどると切なくなる。劇中の岩本は皆が幸せになる方法を考えて、夢を語り続ける明るい男だ。多くの人に公會堂の恩人と呼ばれた彼を知ってほしい。(さかがみ・めいこミュージカル劇団代表)